アヴニール労務事務所 所長 柿野元博
http://www.avenir-sr.jp
E-Mail avenir4you@gmail.com

編集後記　Perfect Game

ロッテの佐々木朗希投手(20 歳)が、13 者連続奪三振を含む完全試合を達成という、野球ファンにとってはとんでもないニュースが飛び込んできました。
試合後に、完全試合を意識していたか？と聞かれ、「正直あまり意識していなくて、打たれたらそれでいいかなと思って投げました」と淡々と答えました。さらにリードした新人キャッチャーの松川捕手（18 歳）への感謝の言葉も忘れませんでした。若者たちのこれからの活躍がますます楽しみです。(^o^)/

完全試合といえば、最終回９回ツーアウトまで１人の走者も出さないで完全試合達成まであと一人と迫った、メジャーリーグのデトロイトタイガースのガララーガ投手を思い出します。
最後のバッターを見事一塁ゴロに打ち取り、誰もが完全試合達成と思った瞬間、１塁審判はセーフの判定。
明らかな誤審でした。客席からはブーイングの嵐。タイガースベンチも猛抗議したものの、リプレイ検証の無い時代、判定が覆ることはありませんでした。(*_*)
試合後、他の審判からアウトだったと指摘され、また自らビデオでもアウトであったことを確認したその１塁審判は誤審を認め、試合後にガララーガに泣きながら謝罪したといいます。
審判の誤審の謝罪についてマスコミに聞かれたガララーガ投手は、審判を責めることなく、「Nobody is perfect（誰も“パーフェクト”ではない）」とかばいました。。
そこには、損得を越えて相手を思いやる尊いスポーツマンシップがありました。

僕のサラリーマン時代の話。僕はシステムを構築し稼働させるという、いわゆるＳＥをしていました。
ある時、担当した中国地方にあるお客様の給与システムにミスがあり、一部の社員に対して給与を過払いするという事態を起こしてしまったのです。
社員の方の生活給である給与システムに計算ミスはどんなことがあっても許されません。
だからこそ、給与を担当される方は責任感がひときわ強く、プライドを持ってやってることをよく知っているつもりです。僕は真っ青になりました。
そのお客様にトラブルのご報告とお詫びをして深々と頭を下げたときのことです。
先方の役員からかけられた言葉に驚きました。
「わかりました。でも、うちの会社にも悪いところあったんでしょ。どうかそれもおっしゃってください。」
厳しいお叱りの言葉があって当然と思っていた僕は、その方の言葉に思わず涙があふれそうになりました。
「いえ、私どもの問題です」と答えながら、「このお客様のために力を尽くさなければ」って心から思いました。
その後、システムの改修はもちろんですが、過払いの対象となった方一人ひとりにお詫びして次月給与での過払い分の徴収のお願いをして回りました。
大変ありがたいことに、そのお客様とはその後僕が退職するまで長いお付き合いをさせていただきました。

こんな給与計算業務を含め、「ちゃんとやって当たり前」と思われているような仕事ってありませんか。
でも、僕らは突如はびこった新型コロナに、「当たり前」であることの尊さや有難さを学んだはず。
「当たり前」の反対は、「有り難い」。それはすなわち、「ありがとう」です。
どうか、当たり前のようにお仕事をされている方を「当たり前」と思わずに、感謝と思いやりの気持ちを持って接してあげてくださいね。
パーフェクトゲームと同じように、いい仕事も一人だけではできません。
それは決してパーフェクトではない人間一人ひとりが、協力しあって目指せるもの。
ささやかながら僕も、皆さんが思い描くパーフェクトゲームの一助になればと思っています。^^